

修了生・卒業生代表謝辞

本日は、私たち修了生・卒業生の為に、ここ佛教大学礼拝堂でこの様に厳粛な式典を挙げていただき、誠にありがとうございます。ご多忙にもかかわらず、御臨席を賜りました諸先生方をはじめ、御来賓の皆様方に修了生、卒業生 242 名を代表致しまして、心から御礼を申し上げます。

只今は、田中学長の告辞をはじめ、御来賓の方々からの御祝辞を賜り、私たち修了生卒業生一同、身の引き締る思いと、感謝の気持ちで一杯です。

さて、7年前に私が本学仏教学部生と成る切っかけは、会社定年後、仏教を学びたいとの一心で、通信課程の大学を探している内に、ここ佛教大学に辿り着いた訳です。

私の高校卒業当時、今から 53 年前は、津軽の田舎においての大学進学は夢物語に等しくいわば、その想いを成し遂げた気持ちです。本学での本当の味わいは、学習履修後の単位取得及び合格点を得る喜びは勿論の事ではあるが、スクーリング体験なのではないかと思うのであります。定年退職後の農業の傍らで、短くて 3 日、長くて 1 週間の京都住いは、今までにない緊張感、不安感の交わる別世界であり、味のある掛替えのない、スクーリングであると共に、京都へ参らせていただけると云う感謝の気持ちであります。

そして、諸先生方の有り余る御熱心な御講義奥深く慈愛に満ちた数々の御助言をいただき、仏教の世界へ少しでも近づく事ができ、向学心が一步踏み出したのは事実です。

又、教科学習会では、仏教以外の歴史、福祉、民俗等の御講義を受ける機会を得て、様々の学問を学べた喜びは、言葉にならない感動です。

その延長ではありますが、卒論の課題として約 800 年前、法然上人のお弟子さんで、東北方面へ布教の為に、下向された金光上人の歩みの初歩ではありますが、研究出来た事に対しても感謝心満載であり、卒業後も我が津軽地方に残る、数少ない文献を基にして微力ながら研究に励み、前進するつもりです。

私にとって、本学での学友会活動に希少ではあるが、若い人達と共に、お手伝い出来た事に、感謝、感謝です。東北ブロックを足掛りにして、関東ブロックや各支部の役員の方々、鷹陵会の先輩方、全国の支部長の皆様方と親しく触れ合う事が出来て、私にとっては大きな財産となり、思えばこの様な年配者を仲間、学友として接していただきまして、御礼の申し様がございません。

学友会の活動を通して知った事は、様々な現状を抱えながら学んでいる学友が、非常にたくさんいると云う事でした。病気と格闘しながら学んでいる方、仕事や家庭の問題に押しつぶされそうになりながら、悩んで学んでいる方が少数ながらもいました。その様な学友と年齢も経歴も別にして、共に学ぶ者として励まし合い、高め合ってきました。

その様な、私たち学生を支えて下さいました通信学生課の皆様にも、深く感謝しています。本学の修了、卒業で学びの道は終るものではないと思うと共に、これからも終生学び続けながら、本学で学んだ事を、いかに地域社会に還元していくのが大切だと思います。

幾度かこの礼拝堂の前で、法然上人のお言葉で「智者のふるまいをせずして、ただ一向に念佛すべし」を、繰り返したものです。

決して、自分一人の力で、修了、卒業する事が出来たのではありませんし、愚者である己を常に、肝に銘ずる事が、社会に対する心構えそのものと思います。

最後に、私たちをお導きいただきました諸先生方、数々の場面で支えて下さった職員の皆様、修学に理解を示してくれた家族、共に学んだ学友に感謝すると共に、ここ佛教大学の益々の発展を祈念致しまして謝辞をさせていただきます。ありがとうございました。

平成31年3月25日

修了生・卒業生代表
仏教学部 仏教学科
櫻庭 俊一